

ひろか

だより

第404号
令和8年3月17日
発行
弘果
弘果 弘前中央青果株式会社
津軽の「うまい」がここにある

豪雪被害樹のサポートに！
枝受け 杉材支柱
弘果物流
各サイズ取り揃えております

アムさん

津軽の春を呼ぶ 定植始まる

雪解けが進み、津軽の春を呼ぶ「アムさんメロン」の定植が、つがる市丸山地区の工藤勝彦さんのハウスで2月28日、同本造地区の阿部祐一さん、松橋尚子さんのハウスでは3月3日に始まりました。
工藤さんのハウスでは当日、880本の苗が定植され、4月までには約2500本の苗が定植される予定です。工藤さんは「例年より少し早い定植となりました。ハウスの温度や水管理等の栽培管理を徹底し、高品質で食味が良いアムさんメロンを生産していきたいです」と話していました。

阿部さん、松橋さんのハウスでは当日、青森オリジナルメロン生産連絡協議会弘前支会会長も来園し、800本の苗が定植されました。4月までには約2千本の苗が定植される予定です。阿部さんは「今年は大雪で各所に様々な被害等がありました。その大雪に負けないように、高評価をいただけるメロンを目指し、生産に励みます」と話し、松橋さんは「定植したメロンを大玉かつ高い等級で出荷することを目指し、徹底した栽培管理に努めていきたいです」と話していました。

工藤さん、松橋さんは「今年は雪が多く、ハウスの管理に苦労されたと思いますが、こうして各所で『つがりアムメロン』のスタートとなる『アムさんメロン』の定植が始まりました。スタートが良ければ、その後続く他のメロンの出荷の大きな励みとなりますので、これからの生産、出荷に期待しています」と話していました。



各ハウスで行われた期待を含めた定植作業

弘果総研りんご高密度栽培研究会

反省会で情報を交換・共有
弘果総研りんご高密度栽培研究会（田中一幸会長）では2月14日、令和7年度の反省会を行い、会員や関係者17名が参加しました。
反省会では、高密度栽培における7年産りんごの調査報告が行われ、栽培の振り返りでは、参加者全員で良かった点・改善点などを挙げ、近年相次いでいる鳥獣や大雪の被害の報告、対応策等についても触れ、活発な意見交換が行われました。また、各園地のりんごを試食し、試験者の



試食では参加者全員でそれぞれのりんごの食味・品質を確認

中央果実協合理事長賞受賞

りんご高密度栽培の経営モデル園を運営する弘果総合研究開発が、中央果実協会主催（後援・農林水産省）の令和7年度「果樹農業における担い手の育成及び活躍表彰」において、新規就農者の育成に関する取り組みが高く評価され、担い手の育成・確保の部で、中央果実協会理事長賞を受賞しました。
同表彰は、果樹生産現場において担い手の育成・確保に積極的に取り組み、就農者の定



Hiroka R&D Inc. 弘果総合研究開発(株)

青森みちのく銀行 りんご生産者対象 産地市場活性化ローン

対象者	以下の①②両方を満たす個人事業主および法人（NPO法人は対象外） ①青森県内でりんごの生産を行っている方 ②各市場へりんごを出荷される方
使いみち	営農資金 融資期間 1年以内
固定金利	①固定金利 1.750%～3.900% (申告内容によって適用金利を設定させていただきます) ②金利優遇 農業共済に加入していることが証明された場合、上記金利から0.200%優遇いたします 〈弘果弘前中央青果(株) 担当店〉 城東支店 0172-27-6701
取扱店	〈(株)津軽りんご市場 担当店〉 板柳支店(兼板柳南支店) 0172-73-3211 上記、該当店の法人営業課がご対応いたします

第16回ゴニンカン弘果カップ開催

津軽地方で親しまれるトランプゲーム「ゴニンカン」を通じて、生産者や買参人、弘果グループ関係者の親睦を図ることを目的とした当社主催の「ゴニンカン弘果カップ」が3月4日、青森県武道館において開催されました。
総勢287名が参加した会場では、札の配り役を含めた6人一組が座布団を囲み、各所で手札を眺め、仲間や相手の手の内を読みながら、カードを出すタイミングや駆け引きの頭脳戦を繰り広げていました。
【個人戦（敬称略）】
優勝：葛西金緑（丸蔵組合）
準優勝：白戸節夫（松竹生産組合）
第3位：赤城滋（鷹ノ尾出荷組合B）
社長賞：山口岩光
【団体戦（敬称略）】
優勝：チームじよっぱり
準優勝：松竹生産組合
第3位：村山ファミリー



熱戦を繰り広げ親睦を深める参加者

花き部 花育活動

弘果花き部では、「青森県花のく」にづくり協議会）の花育体験、園芸体験の一環として、花をもっと身近に感じてもらうと様々な場所でおと様々な場所で体験学習を開催しています。

津軽りんご市場連絡協議会女性部

この「花育活動」と津軽りんご市場連絡協議会女性部の冬期研修が協同した「フラワーアレンジメント教室」が2月17日、津軽りんご市場大会議室で開催され、約40名の部員が参加しました。
研修では、チューリップやスイートピー、フリージアなど春を感じさせる花を使用したフラワーアレンジメント制作にあたり、講師がひとつひとつ丁寧に解説・実演しました。参加者は講師のアドバイスを聞き、熱心に思い思いの作品を作り上げていました。
津軽りんご市場連絡協議会女性部の木村イナ子部長は「初めてフラワーアレンジメントを行う部員が多い中、全員が楽しく体験することが出来たようです。こ



フラワーアレンジメント制作を体験した女性部員

青森みちのく銀行が弘果と津軽りんご市場と提携し、りんご生産者向けの金融支援として、運転資金制度「産地市場活性化ローン」を開発し、取り扱っています。
同制度は、各市場にりんごを出荷する県内の個人事業主と法人が対象で、出荷したりんご売上代金を担保に融資し、営農に限る運転資金として利用できます。不動産担保、保証人不要で、借入れしやすくなっております。金利については、青森みちのく銀行所定の固定金利で、農業共済に加入している場合は、年0.2%金利を引き下げることができます。融資の期間は1年、限度額は300万円以内で、市場への出荷箱数により変わります。また、各市場に出荷実績のない方も、これから出荷することをご利用できます。
詳細は同ローン取扱店（上記参照）へご来店及びお問い合わせください。
尚、各市場で実施している「りんご予約金制度」は変わらずにお使いいただけますので、こちらも引き続きご利用ください。

「農」の「業」を継ぐ

期待の後継者



今泉

祐樹さん (29)

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

【園地所在地】弘前市小友
【作付状況】りんご・1.5畝、桃・20畝
【就農年】2017年

【きっかけ】りんご農家に生まれ、りんごが身近にある環境に育ちました。やがて進路を決める際は、農業が生活の一部で愛着があり、周りでよく聞く「りんご農家を継ぎたくない」等の反動的な感情もなく、自主的に家業継承を念頭に、高校はりんご科を選択し、その後は学びを深めるべく、青森県営農大の果樹専攻に進みました。そこで理論と実習から果樹について学び、卒業後は満を持して就農しました。

【座右の銘】「奇跡を待つより捨て身の努力」世界的に知名度が高く伝説的なアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」の作中に出てきた言葉です。受け身で幸運を待つのではなく、自ら命懸けで限界を超えて行動することで道を開くという、能動的で強い覚悟を示す名言です。奇跡はただ待つ人には起きず、全力で挑み続けた人の上だけに、結果として訪れると信じて、今日できる最大限の努力を自ら選び続けていきたいと思います。



青の煌めきあおもり国スポ



第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会スキー競技会クロスカントリー競技が2月15日～17日、青森県弘前市で行われ、弘果SRC（スキーレーシングクラブ）の横濱沙莉選手が出場しました。

大会では、両日とも弘果グループの応援団が駆け付けました。コース脇にのぼり旗や横断幕を掲げて、コース各所から大きな声援を送りました。



連日応援に駆け付けた弘果グループ職員と横濱選手

下に20秒以上の差をつける圧巻の滑りで、地元開催の国スポで優勝を飾りました。大会3日目の16日は女子20キロリレー（5人×4人）が行われ、横濱選手が青森県の第3走で出場しました。横濱選手は第2走の選手から8位でタッチを受けると、先行する2選手を抜き去り順位を押し上げ6位でアンカーへつなぎ、そこからさらに順位を上げ5位でフィニッシュしました。

大会結果

2月16日（月）
女子5キロクラシカル
【成年女子B】
1位 横濱 14分17秒3
2月17日（火）
女子4×5キロリレー
5位 青森 55分22秒1
（横濱第3走）

世界で闘う土屋選手に熱いエールを



弘果大応援団イタリアに駆け付ける

冬季五輪日本代表に選出された土屋選手は、クロスカントリー競技の20キロ複合、10キロフリー、50キロクラシカルに出場し、世界の壁に挑み健闘しました。同大会へは弘果グループから15名が現地（イタリア）へ応援に駆け付け、2月12日に行われた10キロフリーを観戦しました。応援団は、弘果グループ職員や土屋選手の出身地である八幡平市の小中学生の思いが寄せ書きされた日の丸を掲げて、熱い声援を送りました。

土屋選手から全日程終了後「2回目となる五輪は、本当に色々なことを考えて臨んだ大会でした。どの種目も思い描いていた成績には届きませんでした。それでも沢山のことを学び感じることができ、今は五輪に出場できた自分自身を誇りに思います。そして、はるばるイタリアまで弘果グループの皆様足を運んで応援していただいたことに、本当に感謝

た。しかありません。『ホームである青森や日本の各大会で聞こえてくる津軽弁交じりの声援が世界でも聞こえる・・・』それだけで自然と身体も動き、納得のいくレースをすることができ、応援の力の偉大さを改めて実感しました。日本に居る皆様からも多くの激励をいただき、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました！と、熱いメッセージをいただきました。

更なる栽培意識向上へ里芋栽培勉強会開催



講師の説明を熱心に聞く参加者



里芋栽培者大募集

弘果そ菜部で栽培を推進している里芋の栽培意識向上に向けて3月5日、里芋栽培講習会が開催され、生産者と弘果職員あわせて約40名が参加しました。

講習会では、愛媛県農林水産研究所より講師を招き、里芋の一大産地である愛媛県での栽培の歴史や生産状況について、事例を交えて紹介されました。

参加者から「芽出し作業の必要性」「種芋の選別方法」「寒冷地における種芋貯蔵」等の意見があり、講師からは「気候栽培条件・環境の違いを前提とした見解が示され、青森県での里芋栽培技術確立、産地化

桃 剪定勉強会開催

桃の剪定勉強会が3月12日、弘前市糠坪にある棟方健二氏の園地にて行われました。勉強会には桃の生産者約50名が参加し、地方独立行政法人青森県産産技術センターりんご研究所から迎えた講師2名が剪定を実演しました。実演では樹形形成の要点等、剪定のポイントが解説され、質疑応答では参加者からの「りんご剪定との違い」や「主枝、垂主枝、側枝、結果枝の見極め及び仕立て方」等の質問に、講師が豊富な知識や経験、様々な実証結果を交えて応えていました。また講師より、栽培環境等を踏まえて、青森県

栽培技術向上に向け多くの桃生産者が来場しました。



栽培技術向上に向け多くの桃生産者が来場